



## 第146期救急科を実施しました

[期 間] 令和4年1月6日（月）から2月28日（月）まで  
35日間

[会 場] 埼玉県消防学校  
埼玉医科大学総合医療センター  
所属消防本部

[到達目標] 救急医学に関する基礎知識に基づき、応急処置時における的確な  
観察・判断能力、応急処置に必要な専門的スキルを修得し、救急隊  
員として活動できる。

[教育対象] 救急業務に従事させようとする者（日赤救急員の有資格者、初任教  
育救急講習修了者又はこれらと同等以上の知識技能を有する者）

[修了者] 27消防本部（局）96名

**川越地区消防局 鶴島 宏治 消防士長** \* 第1小隊総代

**修了しての感想**

救急科が始まるとともに各地でコロナ感染が拡大し、教育が継続できるか不安になる時期もありました。

しかし、学校教官の感染防止に対する御尽力もあり、学生の中から感染者が出ることもなく無事に修了することができました。救急隊員として必要な感染対策が身をもって感じられ、また、消防学校で初めてのリモート講義も取り入れられ、時代に合った教育を体感できました。

この救急科を機に、埼玉県消防学校の教育がより良いものになり、埼玉県民の皆様の安心・安全に少しでも繋がっていけばと思います。



**後輩へのメッセージ**

この救急科は、消防職員としてとても重要な知識や技術を学ぶことのできる教育です。それと同時に、県内の多くの職員と交流を深め、一つの目標に向かって学べる場であると思います。この横の繋がりを大切にすることで、埼玉県の消防職員として一つになることができ、大規模災害時の広域連携においても良い活動ができると感じます。救急に関する多くの知識・技術を学ぶだけではなく、この救急科を通じて多くの仲間を作ってもらいたいです。

**春日部市消防本部 渡邊竜太郎 消防士長** \* 第2小隊総代

**修了しての感想**

新型コロナウイルス感染拡大の中、第146期救急科が無事修了することができたのも、教官、講師、学校関係者、その他関係者、皆様の御尽力があつてのことだと思っております。本当にありがとうございました。救急を学ぶための素晴らしい環境が整っており、救急に没頭できる2カ月間でした。

傷病者は救急隊を選ぶことはできません。この救急隊員でよかったと思ってもらえるように、この先も知識・技術を高めていき、一人でも多くの命を救っていきたいと思います。また、消防人として市民の皆様の安心安全に貢献して行きたいと思います。



**後輩へのメッセージ**

救急科は約2カ月という期間で知識と技術を学びます。長いと思う方もあると思

ますが、実際にはとても短いです。そのため、入校前は、しっかりと所属で事前勉強に励んでください。知っているといないで、知識・技術の吸収に差が出ます。

私達の行動一つ一つは全て市民のためにあるということを忘れないでください。救急科には救急を学ぶための素晴らしい環境が準備されています。一分一秒を無駄にしないためにも、興味を持ち学ぶ姿勢を持ってください。消防、救助にも必ず通じるものがあります。

すべては自分次第です。楽しく充実した救急科を過ごしてください。

**蓮田市消防本部 神屋 敦 駿也 消防士長** \* 第1小隊副総代

### 修了しての感想

第146期救急科は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、懇親会の中止、授業の中断、リモートワークの実施など特別な対応がなされました。その環境下でも、多くの学びと刺激を得ることができたのは、学校教官をはじめ、埼玉医科大学総合医療センターのドクター、その他様々なサポートのおかげだと大変感謝しております。

この救急科を通じて、新たな目標や小さなきっかけをたくさん得ることができました。学びえた知識・技術を最大限に現場活動に活かします。



### 後輩へのメッセージ

救急科は約2カ月、災害対応の心配をすることなく、学ぶことに集中できる唯一の期間です。この2か月間は人により長くも短くもなると思います。この限られた期間を「どんな想いで、どんな姿勢で取り組むのか」によって、得られるものは異なると感じました。

各所属でも同じことが言えると思います。ただ漠然と過ごすのか、それとも多くのことを学びたい、成長したいと考えて過ごすのか。与えられた環境、期間をどう過ごすのかは人それぞれですが、たかが2か月、されど2か月です。どんな2か月にしたいのかをよく考えて取り組んでいただきたいと思います。

### 修了しての感想

コロナ禍での第146期救急科が始まり、約2か月間1人の感染者を出すことなく無事に修了できたのも佐藤教官、目黒講師をはじめ支援教官、学校関係者、そして埼玉医科大学総合医療センターの方々の御尽力のおかげだと思っています。ありがとうございました。

また、今回感染リスクを抑えるために導入されたりリモート講義は、学習効果がとても高いように感じられました。

この救急科で学んだことを忘れず、傷病者第一の活動をしていきたいと思います。



### 後輩へのメッセージ

これから救急科に入校される皆さんは不安が大きいと思います。私自身そうでした。それでも全力で立ち向かってください。わからないことがあったとき、何度も失敗したとき助けてくれる仲間、教官方がいます。どんな時もあきらめずに自ら学んでいってください。2カ月弱の期間を有意義なものとするため、1日1日を大切に熱意をもって過ごしてください。



## 救急科の教育訓練の様子



入校式



座学



異物除去訓練



屋外外傷訓練



産婦人科救急訓練



実技効果確認